

# 国際バカロレアについて

平成29年3月  
文部科学省  
大臣官房国際課

## 1. 国際バカロレア（IB）について

国際バカロレア機構（本部ジュネーブ）が実施する国際的な教育プログラム。

同機構は、1968年、インターナショナルスクールの卒業生に、国際的に認められる大学入学資格（国際バカロレア資格）を与え、大学進学へのルートを確保するとともに、学生の柔軟な知性の育成と国際理解教育の促進に資することを目的として発足。

認定校に対する共通カリキュラムの作成や、国際バカロレア試験、国際バカロレア資格の授与等を実施。

## 2. IBのプログラムについて

グローバル化に対応できるスキルを身に付けた人材を育成するため、生徒の年齢に応じて、以下の教育プログラムを提供。

平成29年3月1日現在、世界140以上の国・地域、4,784校において実施。

### (1)プライマリー・イヤーズ・プログラム(PYP)【1,500校(国内:21校)】

3歳～12歳を対象として、精神と身体の両方を発達させることを重視したプログラム。どのような言語でも提供可能。

### (2)ミドル・イヤーズ・プログラム(MYP)【1,382校(国内:11校)】

11歳～16歳を対象として、青少年に、これまでの学習と社会のつながりを学ばせるプログラム。どのような言語でも提供可能。

### (3)ディプロマ・プログラム(DP)【3,175校(国内:31校)】

16歳～19歳を対象としたプログラムであり、所定のカリキュラムを2年間履修し、最終試験を経て所定の成績を収めると、国際的に認められる大学入学資格（国際バカロレア資格）が取得可能。原則として、英語、フランス語又はスペイン語で実施。

### (4)キャリア関連プログラム(CP)【133校(国内:-校)】

16～19歳を対象として生涯のキャリア形成に役立つスキルの習得を重視したキャリア教育・職業教育に関連したプログラム。一部科目は、英語、フランス語又はスペイン語で実施。

## 3. 我が国における取組等

(1)我が国では昭和54年より、大学入学資格に関し、学校教育法に基づき、国際バカロレア資格を有する者で18歳に達した者を、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として指定。

(2)平成25年度からは、国際バカロレア機構との協力の下、DPの科目の一部※を日本語でも実施可能とする「日本語DP」の開発・導入に着手。

※日本語で実施可能な科目は、以下の通り。

経済、地理、歴史、生物、化学、物理、数学、数学スタディーズ、音楽、美術、  
知の理論(TOK)、課題論文(EE)、創造性・活動・奉仕(CAS)

(参考) 日本語DPによるIB校の認定等に関するスケジュール(最も早いケース)

- ・平成27年 2月 IBから、最初の日本語DPによるIB校認定(同年4月に1年生入学)
- ・平成27年 4月 一部の認定校で、2年生より日本語DP課程開始
- ・平成28年11月 同校で、3年生が国際バカロレア試験を受験(平成29年3月卒業)

※ただし、地理、数学スタディーズ、音楽、美術については、最短で、平成29年4月に2年生で日本語DP課程として履修が可能となり、平成30年11月に3年生で国際バカロレア試験において日本語により受験可能となる予定。

(3)平成25年5月、東京学芸大学を中心に、関心を有する高等学校等により、国際バカロレア、特に日本語DPの導入等に向けた情報共有等のための「国際バカロレア・デュアルランゲージ・ディプロマ連絡協議会」※が設立。

※平成29年3月現在、72校・機関が構成員として、26の教育委員会がオブザーバーとして参加。

(4)国際バカロレア日本アドバイザー委員会※において、日本におけるIBの導入拡大に向けた課題と対応方策について検討を行い、平成26年4月、そのための提言(報告書)を取りまとめ。

※高校、大学、産業界の有識者や関係者等で構成。

(5)現在、文部科学省において、IBの導入拡大に向け、以下の取組を推進。

- ・必要な教員の確保に向けた取組(外国人に対する特別免許状授与の促進等)
- ・DPの導入を促進するための教育課程の特例措置の新設
- ・「国際バカロレア認定のための手引き」の作成・普及
- ・国内の大学入試におけるIBの活用促進
- ・IBに関する情報提供・発信
- ・全国で無料により参加可能なワークショップ※を実施 等

※無料になるワークショップと参加者の条件あり。

## 4. 国際バカロレアの推進に関する提言等(抜粋)

### (1)日本再興戦略

○「日本再興戦略 -JAPAN is BACK-」

(平成25年6月14日 閣議決定)

「一部日本語による国際バカロレアの教育プログラムの開発・導入等を通じ、国際バカロレア認定校等の大幅な増加を目指す(2018年までに200校)。」

### (2)まち・ひと・しごと創生総合戦略

○「まち・ひと・しごと創生基本方針 2015」

(平成27年6月30日 閣議決定)

「国際的に通用する大学入学資格が取得可能な教育プログラム(国際バカロレア・ディプロマ・プログラム)については、科目の一部を日本語で実施しても認定可能となるプログラムの開発に引き続き取り組む。」

○「まち・ひと・しごと創生総合戦略」(2016改訂版)

(平成28年12月22日閣議決定)

「国際的に通用する大学入学資格が取得可能な教育プログラム(国際バカロレア)の普及拡大を図り、2020年までに国際バカロレア認定校等を200校以上に増やす(2014年の74校から2016年10月現在で101校に増加)。」

### (3)教育再生実行会議

#### ○第三次提言「これからの大学教育等の在り方について」 (平成25年5月28日)

「国は、国際バカロレア認定校について、一部日本語によるディプロマ・プログラムの開発・導入を進め、大幅な増加(16校→200校)を図る。」

#### ○第四次提言「高等学校教育と大学教育との接続・大学入学者選抜の在り方について」 (平成25年10月31日)

「大学は、入学者選抜において国際バカロレア資格及びその成績の積極的な活用を図る。国は、そのために必要な支援を行うとともに、各大学の判断による活用を促進する。」

#### ○第七次提言「これからの時代に求められる資質・能力と、それを培う教育、教師の在り方について」 (平成27年5月14日)

「国際バカロレア認定校を大幅に増加させる。」

### (4)日本経済団体連合会

#### ○「世界を舞台に活躍できる人づくりのために」

##### —グローバル人材の育成に向けたフォローアップ提言— (平成25年6月13日)

「語学力のみでなく、コミュニケーション能力や異文化を受容する力、論理的思考力、課題発見力などが身に着くIBディプロマ課程(16歳～19歳対象)は、グローバル人材を育成する上で有効な手段の一つである。」

「ディプロマ取得者に対する社会における適切な評価も重要であり、大学入試における活用や、企業も採用時や人材活用において適切に評価することなどが重要である。」

「我が国においても、入試の際、TOEFLやTOEICなどの英語能力の4技能を測定できる外部試験を活用することや、入試においてIB資格を活用する大学を拡大することなども検討すべきである。」

#### ○「次代を担う人材育成に向けて求められる教育改革」 (平成26年4月15日)

「グローバル化に対応するためには外国語能力とともに、課題を発見し解決する能力や論理的思考力、コミュニケーション能力、さらに日本の近現代史に関する知識を含む幅広い教養を育む必要がある。政府も、英語力に加え、問題解決能力や社会課題に関する深い関心と教養を身につけたリーダー人材を育成する「スーパーグローバル・ハイスクール」の認定(2014年度56校)や、国際バカロレア(IB)課程教育を行うIB認定校の拡大(2018年度までに200校へ)など、グローバル人材育成のため、教育機関の創意工夫や特色を活かした教育を推進する方針を打ち出している。こうした取り組みを更に拡大するとともに、横展開させる必要がある。IBを教授できる人材の育成・確保が喫緊の課題であり、教員養成大学等において迅速に取り組むことが求められる。」

#### ○「今後の教育改革に関する基本的考え方」

##### —第3期教育振興基本計画の策定に向けて— (平成28年4月19日)

「グローバル人材に求められる素質や能力を育む上で、国際バカロレア(IB)教育は有効であり、その普及に向けた政府目標を達成すべきである。具体的には、①IB 課程を教授できる教員の確保・養成(教員養成大学におけるIB教授コースの新設・拡大)、②わが国の大学入試におけるIB ディプロマ資格の活用促進、③IB 課程と学習指導要領の要件の双方を無理なく取得するための制度の新設が必要である。また家計が少ない経済負担で子弟にIB教育を受けさせられるよう、国公立高校においてIB 教育を普及させることも重要である。IB教育の普及は、国内で働く外国人人材の子弟の教育環境の整備にも繋がる。」

(5)国立大学協会

○国立大学の将来ビジョンに関するアクションプラン 工程表 (平成27年9月14日)

入試改革の一環として、「推薦入試、AO入試、国際バカロレア入試等の拡大(入学定員の30%を目標)」を行うとしている。

(6) 日米文化教育交流会議(CULCON)

○日米文化教育交流会議(CULCON)教育タスクフォース報告書 (平成25年6月13日)

「国際バカロレア資格を取得可能なプログラムを拡充する。」

**5. 国際バカロレアの推進関連リンク**

●文部科学省

国際バカロレア普及拡大広報ページ

<https://www.facebook.com/mextib>

●国際バカロレア・デュアルランゲージ・ディプロマ連絡協議会(参加登録先を含む。)

<http://lc-ibdljp/>

●国際バカロレア機構

<http://www.ibo.org/>(英語)

<http://www.ibo.org/ibap/schoolservices/ibjapangateway.cfm>(日本語)

## 国際バカロレアの認定校

(平成29年3月1日現在)

全42校(うち PYP実施校 21校 MYP実施校 11校 DP実施校 31校)

1校で複数のプログラムを実施している学校があるため、プログラム毎の校数の合計は全体の校数と一致しない

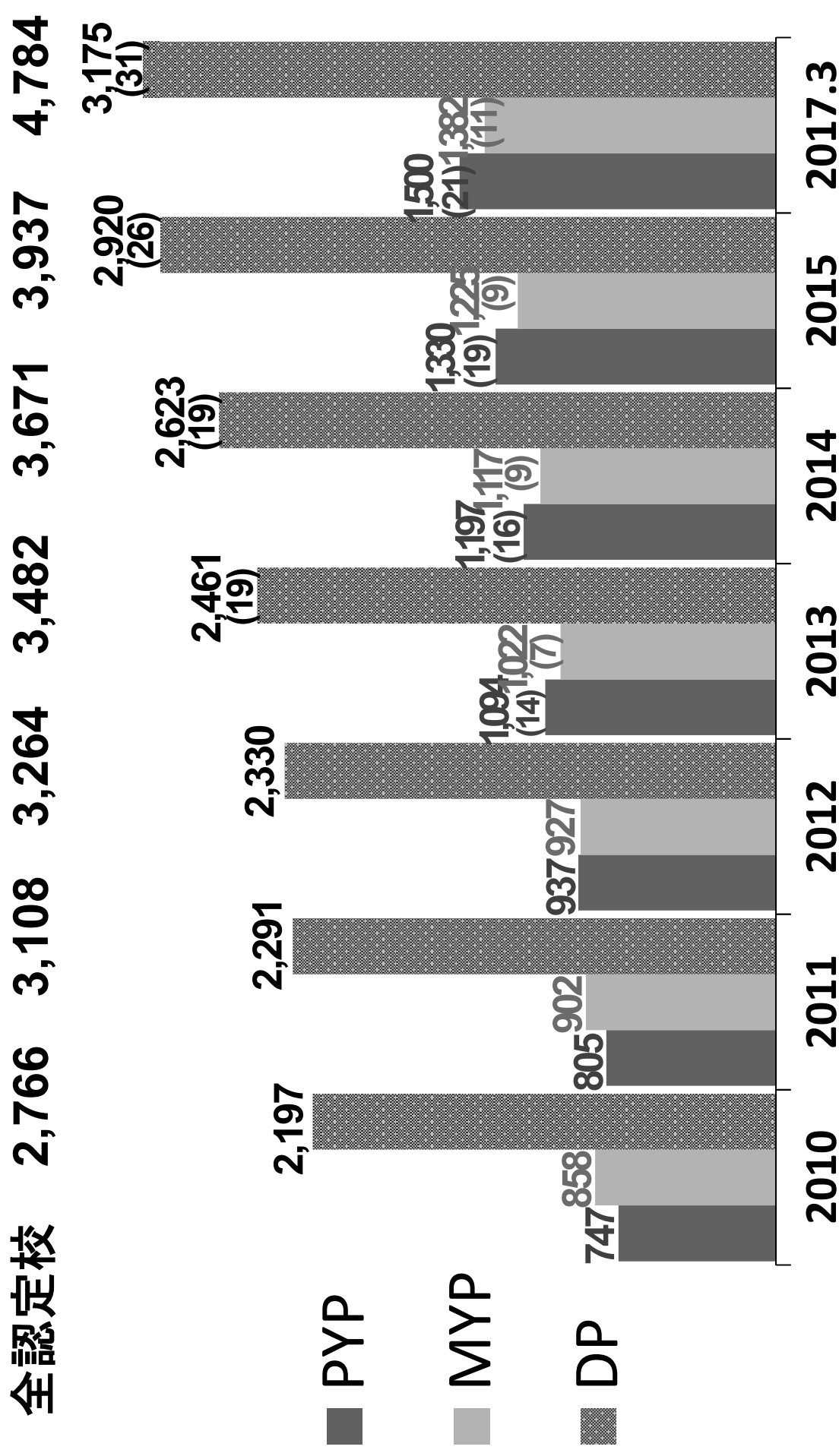
|    | 学校名                        | 所在地  | PYP | MYP | DP  |
|----|----------------------------|------|-----|-----|-----|
| 1  | ※仙台育英学園高等学校                | 宮城県  |     |     | ◎   |
| 2  | つくばインターナショナルスクール           | 茨城県  | ○   | ○   |     |
| 3  | ※茗溪学園高等学校                  | 茨城県  |     |     | ◎   |
| 4  | ※ぐんま国際アカデミー                | 群馬県  |     |     | ○   |
| 5  | ※筑波大学附属坂戸高等学校              | 埼玉県  |     |     | ◎   |
| 6  | インドア・インターナショナルスクール・イン・ジャパン | 東京都  |     |     | ○   |
| 7  | アオバジャパン・インターナショナルスクール      | 東京都  | ○   | ○   | ○   |
| 8  | カナディアン・インターナショナルスクール       | 東京都  | ○   |     |     |
| 9  | K・インターナショナルスクール            | 東京都  | ○   | ○   | ○   |
| 10 | 神宮前小学校国際交流学級               | 東京都  | ○   |     |     |
| 11 | 清泉インターナショナルスクール            | 東京都  | ○   |     | ○   |
| 12 | セント・メリーズ・インターナショナルスクール     | 東京都  |     |     | ○   |
| 13 | ※玉川学園中学部・高等部               | 東京都  |     | ○   | ○   |
| 14 | 東京インターナショナルスクール            | 東京都  | ○   | ○   |     |
| 15 | ※東京学芸大学附属国際中等教育学校          | 東京都  |     | ○   | ◎   |
| 16 | ※東京都立国際高等学校                | 東京都  |     |     | ○   |
| 17 | みずほスクール                    | 東京都  | ○   |     |     |
| 18 | ※山梨学院大学附属高等学校              | 山梨県  |     |     | ◎   |
| 19 | ※インターナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢   | 長野県  |     |     | ○   |
| 20 | サンモール・インターナショナルスクール        | 神奈川県 |     |     | ○   |
| 21 | ホライゾン・ジャパン・インターナショナル・スクール  | 神奈川県 |     |     | ○   |
| 22 | 横浜インターナショナルスクール            | 神奈川県 | ○   | ○   | ○   |
| 23 | ※法政大学女子高等学校                | 神奈川県 |     |     | ◎   |
| 24 | ※サニーサイドインターナショナルスクール       | 岐阜県  | ○   |     |     |
| 25 | ※加藤学園暁秀高等学校・中学校            | 静岡県  |     | ○   | ○   |
| 26 | 名古屋国際学園                    | 愛知県  | ○   |     | ○   |
| 27 | ※名古屋国際中学校・高等学校             | 愛知県  |     |     | ○   |
| 28 | 京都インターナショナルスクール            | 京都府  | ○   |     |     |
| 29 | 同志社国際学院                    | 京都府  | ○   |     | ○   |
| 30 | ※立命館宇治高等学校                 | 京都府  |     |     | ○   |
| 31 | 大阪YMCAインターナショナルスクール        | 大阪府  | ○   |     |     |
| 32 | 関西学院大阪インターナショナルスクール        | 大阪府  | ○   | ○   | ○   |
| 33 | カナディアン・アカデミー               | 兵庫県  | ○   | ○   | ○   |
| 34 | 関西国際学園                     | 兵庫県  | ○   |     |     |
| 35 | 神戸ドイツ学院                    | 兵庫県  | ○   |     |     |
| 36 | ※英数学館高等学校                  | 広島県  |     |     | ◎   |
| 37 | ※A I C J高等学校               | 広島県  |     |     | ○   |
| 38 | 広島インターナショナルスクール            | 広島県  | ○   |     | ○   |
| 39 | 福岡インターナショナルスクール            | 福岡県  | ○   |     | ○   |
| 40 | ※リンデンホールスクール中高学部           | 福岡県  |     |     | ○   |
| 41 | 沖縄インターナショナルスクール            | 沖縄県  | ○   | ○   |     |
| 42 | ※沖縄尚学高等学校                  | 沖縄県  |     |     | ◎   |
|    | 合 計                        |      | 21校 | 11校 | 31校 |

※・・・学校教育法第1条に規定されている学校 ◎・・・日本語DP実施校(8校)

(参考)世界における国際バカロレア認定校数 140以上の国・地域 4,784校

|    |        |        |
|----|--------|--------|
| 内訳 | PYP実施校 | 1,500校 |
|    | MYP実施校 | 1,382校 |
|    | DP実施校  | 3,175校 |
|    | CP実施校  | 133校   |

# 国際バカロレア (PYP,MYP,DP) の認定校数の推移



※( )内は日本国内の学校数。

※1校で複数のプログラムを実施している学校があるため、プログラムごとの学校数の合計は、全認定校数と一致しない。

※2017年は3月1日現在。それ以外の年は11月時点の学校数。



# IBの学習者像

すべてのIBプログラムは、国際的な視野をもつ人間の育成を目指しています。人類に共通する人間らしさと地球を共に守る責任を認識し、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する人間を育てます。

IBの学習者として、私たちは次の目標に向かって努力します。

## 探究する人

私たちは、好奇心を育み、探究し研究するスキルを身につけます。ひとりで学んだり、他の人々と共に学んだりします。熱意をもって学び、学ぶ喜びを生涯を通じてもち続けます。

## 知識のある人

私たちは、概念的な理解を深めて活用し、幅広い分野の知識を探究します。地域社会やグローバル社会における重要な課題や考えに取り組みます。

## 考える人

私たちは、複雑な問題を分析し、責任ある行動をとるために、批判的かつ創造的に考えるスキルを活用します。率先して理性的で倫理的な判断を下します。

## コミュニケーションができる人

私たちは、複数の言語やさまざまな方法を用いて、自信をもって創造的に自分自身を表現します。他の人々や他の集団のものの見方に注意深く耳を傾け、効果的に協力し合います。

## 信念をもつ人

私たちは、誠実かつ正直に、公正な考えと強い正義感をもって行動します。そして、あらゆる人々がもつ尊厳と権利を尊重して行動します。私たちは、自分自身の行動とそれに伴う結果に責任をもちます。

## 心を開く人

私たちは、自己の文化と個人的な経験の真価を正しく受け止めると同時に、他の人々の価値観や伝統の真価もまた正しく受け止めます。多様な視点を求め、価値を見だし、その経験を糧に成長しようと努めます。

## 思いやりのある人

私たちは、思いやりと共感、そして尊重の精神を示します。人の役に立ち、他の人々の生活や私たちを取り巻く世界を良くするために行動します。

## 挑戦する人

私たちは、不確実な事態に対し、熟慮と決断力をもって向き合います。ひとりで、または協力して新しい考えや方法を探究します。挑戦と変化に機知に富んだ方法で快活に取り組みます。

## バランスのとれた人

私たちは、自分自身や他の人々の幸福にとって、私たちの生を構成する知性、身体、心のバランスをとることが大切だと理解しています。また、私たちが他の人々や、私たちが住むこの世界と相互に依存していることを認識しています。

## 振り返りができる人

私たちは、世界について、そして自分の考えや経験について、深く考察します。自分自身の学びと成長を促すため、自分の長所と短所を理解するよう努めます。

この「IBの学習者像」は、IBワールドスクール（IB認定校）が価値を置く人間性を10の人物像として表しています。こうした人物像は、個人や集団が地域社会や国、そしてグローバルなコミュニティの責任ある一員となることに資すると私たちは信じています。

# DPのカリキュラム

① 各グループから1科目ずつ選択し、計6科目を2年間で履修。ただし、グループ6(芸術)は他のグループからの科目に代えることも可能。6科目のうち、3~4科目を上級レベル(HL,各240時間)、その他を標準レベル(SL,各150時間)として履修。

| グループ名           | 科目例  |
|-----------------|--|
| 1 言語と文学<br>(母語) | 言語A: 文学、言語A: 言語と文学、文学と演劇※  |
| 2 言語習得<br>(外国語) | 言語B、初級語学、古典語学  |
| 3 個人と社会         | ビジネス、 <span style="border: 1px dashed black;">経済</span> 、 <span style="border: 1px dashed black;">地理</span> 、グローバル政治、 <span style="border: 1px solid black;">歴史</span> 、心理学、環境システム社会※<br>情報テクノロジーとグローバル社会、哲学、社会・文化人類学、世界の宗教、 |
| 4 理科            | <span style="border: 1px solid black;">生物</span> 、 <span style="border: 1px solid black;">化学</span> 、 <span style="border: 1px solid black;">物理</span> 、デザインテクノロジー、環境システムと社会※<br>コンピュータ科学、スポーツ・運動・健康科学                       |
| 5 数学            | <span style="border: 1px dashed black;">数学スタディーズ</span> 、 <span style="border: 1px solid black;">数学SL</span> 、 <span style="border: 1px solid black;">数学HL</span> 、数学FHL   |
| 6 芸術            | <span style="border: 1px dashed black;">音楽</span> 、 <span style="border: 1px dashed black;">美術</span> 、演劇、ダンス、フィルム、文学と演劇※  |

※なお、「文学と演劇」はグループ1と6の横断科目。「環境システムと社会」はグループ3と4の横断科目。また、「世界の宗教」および「スポーツ・運動・健康科学」はSLのみ。

② また、プログラムの「コア」となる、次の3つの必修要件を履修。

課題論文(EE: Extended Essay) : 履修科目に関連した研究分野について個人研究に取り組み、成果を4,000語(日本語の場合は8,000字)の論文にまとめる。

知の理論(TOK: Theory of Knowledge) : 「知識の本質」について考え、「知識に関する主張」を分析し、知識の構築に関する問いを探究する。批判的思考を培い、生徒が自分なりのもの見方や、他人との違いを自覚できるよう促す。最低100時間の学習。

創造性・活動・奉仕(CAS: Creativity/Activity/Service) : 創造的思考を伴う芸術などの活動、身体的活動、無報酬で自発的な交流活動といった体験的な学習に取り組む。

③ DP資格の取得には、上記を全て履修し、外部評価(国際バカロレア試験等)及び内部評価を通じて、原則として45点満点中24点以上を取得することが必要。配点は、6科目につき各7点(計42点)、3つの必修要件で計3点。

## ※「日本語DP」について

DPの授業・試験は、原則として、英語、フランス語又はスペイン語で行う必要があるが、その一部科目を、日本語で実施可能とするプログラム、□内の科目と必修要件が、日本語でも実施可能。□内の科目については、平成29年4月より日本語でも実施可能になる予定。(なお、□内の科目については平成28年11月から、□内の科目については平成30年11月から最終試験を実施。)

なお、日本語DPでも、6科目中2科目(通常、グループ2(外国語)に加えて更に1科目)は、英語等で履修する必要がある。



# 国際バカロレアの推進

## 国際バカロレア(IB)について

- ・国際バカロレア機構が提供する国際的な教育プログラム。特徴的なカリキュラム、双方向・協働型授業により、**グローバル化に対応した素養・能力を育成**。
- ・世界140以上の国・地域、4,784校で実施(平成29年3月現在)。
- ・高校レベルのディプロマプログラム(DP)は、**国際的に通用する大学入学資格(IB資格)**が取得可能であり、**世界の大学入学選抜で広く活用**。



「日本再興戦略-JAPAN is BACK-」(平成25年6月閣議決定) 「まち・ひと・しごと創生総合戦略」(2016改訂版)  
(平成28年12月22日閣議決定)

**国際バカロレア認定校等を  
2018年までに200校に**

**2020年までに国際バカロレア認定校等を  
200校以上に**

※平成29年3月現在 (計104校)  
PYP:認定校21校 候補校等18校  
MYP:認定校11校 候補校等11校  
DP :認定校31校 候補校等12校

## 導入の意義

①**グローバル人材の育成**  
課題発見・解決能力、  
コミュニケーション能力等

②**国際的通用性**  
国内外への進路の多様化

③**初等中等教育の質の向上**  
大学の国際化・活性化

## 文部科学省の主な取組

**IBを日本の学校が導入しやすくするための取組**

・「**日本語DP**」(平成29年度予算額(案)74百万円(平成28年度予算額89百万円))  
DPの一部科目を、日本語でも実施可能とするプログラム。国際バカロレア機構との協力の下、平成28年度から日本語DP試験を実施。

※日本語DP対象科目:歴史、地理、経済、物理、化学、生物、数学、数学スタディーズ、音楽、美術、Theory of Knowledge、Extended Essay、Creativity/Action/Service

**IBに対応可能な教員を確保するための取組**

・外国人に対する特別免許状の授与促進等

・IB認定に必要なワークショップ受講に係る支援

**DPと学習指導要領の双方を無理なく履修可能とするための取組**

・DPの導入を促進するための教育課程の特例措置

**IB推進の基盤形成のための取組**

・大学入学選抜におけるIBの活用促進

・IB認定のための手引きの作成・普及

・**国際バカロレア・デュアルレジ・ディプロマ連絡協議会の設置・運営**

IBに関心を有する高校等の連携・情報共有の場

※平成29年3月現在、72校・機関が構成員として、26教育委員会が  
オプザーバーとして参加。